

令和５年度 第３回男女共同参画推進委員会 議事録

日時	令和６年３月１８日（月） 開会：午後１時３０分 閉会：午後３時
会場	市役所 ４階 ４－１会議室
出席	足立明美委員長、岩渕養光副委員長、森晶子委員、辻美由紀委員、坂口麻美委員、横山直子委員 事務局（課長・倉石、係長・庄野）
資料	資料１ 男女共同参画パートナーシッププラン（第３次）案 資料２ 男女共同参画パートナーシッププラン（第３次）パブリックコメント結果

１．開会

２．委員長あいさつ

会議の公開及び傍聴について「蕨市市民参画と協働を推進する条例」に基づき定められた「蕨市審議会等の会議の公開に関する要綱」により、この会議の公開を決定し、傍聴にかかる取り決めを行った。（今回の傍聴者は無し）

３．議題

（１）蕨市男女共同参画パートナーシッププラン（第３次）について

蕨市男女共同参画パートナーシッププラン（第３次）について事務局から説明

【質疑応答】

（委員） デートＤＶ防止について、現在、小中学生は一人一台のタブレット端末を学校から与えられおり、宿題等もタブレットから出され、持ち帰れる状況になっている。そのため、これまでインターネットに接する機会の無かった子ども達も YouTube や SNS 等に触れることができるようになり、色々な情報を入手できるようになったため、危険も増えていると思う。デートＤＶ防止の啓発の必要性を益々感じるが、教育現場ではまだ現況に対応できていなく、子ども達もどこに相談をすれば良いか分からない状況だと思う。

文科省は、子ども達に性暴力が及ぼす影響を正しく理解してもらうために「生命の安全教育」を推進しているので、ぜひ積極的に学校の授業等で取り入れてもらいたい。

（委員） 計画 P32 の指標「デートＤＶ防止啓発等の実施事業数」とはどのようなことをされているのですか。また、デートＤＶ防止について、意識啓発を防止パンフレットの配布だけでなく、授業でも啓発を行ってもらいたい。成年式でも配布を行っているようだが、もっと早い年齢からの教育が必要だと思う。

(事務局) 現在は、当市で作成したデートDV防止啓発のリーフレットを市内の新中学1年生に学校を通して配布してもらうことや成年式の際に新成人に配布をしております。来年度以降に関しては、機まつりや宿場まつりでの配布も検討しています。

(委員) ワーク・ライフ・バランスの推進を行うことで、男性の育休取得の促進や産後女性を取り残されないようにしてもらいたいです。また、外国籍の方に関しては、なかなか町会への加入は難しい状況であるが、生活するためには、近所の方とコミュニケーションを図ることも大切だと思うので町会に加入してもらいたい。

(委員) 人口を増やすために、企業等に妊娠出産時の支援を充実していただき、女性活躍やワーク・ライフ・バランスを推進していただきたいです。

(2) パブリックコメントの実施結果について

パブリックコメントの実施結果について事務局から説明

(3) その他

【質疑応答】

(委員) 先日、災害についての講演会があり、町会へ女性参加の要請をしたところ、コロナ禍以前は、参加者のほとんどが男性だったが、今回は女性の参加が多かった。内容も荒川が決壊した際に蕨の被害予想等についてのお話で、備えの大切さを学ぶことができた。

(委員) 先日中学校の卒業式に参加をしたが、送辞や答辞、ピアノ伴奏、指揮者なども女生徒が担っているところも多く見られ、男女共同参画が広がっているのを感じた。

(委員) 能登の震災があったことで改めて、報道で災害時の備えの重要性を伝えていた。また、先日、熊本の避難所運営を行った方のお話を聞く機会があり、町会や地域の方が避難所を運営した時に、女性の視点が入っていることの重要性を学ぶことができた。

今回、蕨市の避難所運営マニュアルの役割分担表にリーダーを記載する欄があり、そこに女性の視点が組み込まれ、男女それぞれが記名できる形になった。市民へ周知をし、実際に避難訓練の際にも女性に入ってもらいたい。また、市から各町会に男女共同参画の視点の避難所運営の指導をし

てもらいたい。

(事務局) 先日、男女共同参画の視点から災害や防災対策についての研修を職員向けに行ったので、担当課が中心となり、今後動いていくと思う。女性専用のトイレの用意を多く備蓄することや防災会議の女性委員登用も県平均より高い数値となっている。

(委員) 災害時の避難所に、小学校や公民館があるが、自宅へ近所の人を避難させるとなった場合に、近所付き合いがないと難しいところもある。コミュニティの大切さを感じる。

(委員) 蕨市男女平等推進市民会議で作成した男女共同参画の視点から見た「防災紙芝居」を読み上げ、解説を入れながら紹介を行った。

(委員) 紙芝居を見て、蕨市は外国籍の方も増えてきて、その方々や多様性という面でも避難所運営について考えていかなくてはいけないと思った。

(委員) 防災について、人口密度日本一の蕨市で、人口に対して避難所数が少ないのではないかと、避難の必要な市民が避難所に全員収まるのかと不安になった。また、能登半島震災時には、ペット連れが入れる避難所が1か所しか無かったようである。色々と考えてしまうと不安になる。

(委員) 男女共同参画の取り組みについての周知が必要である。広く浸透させていただきたい。自分の職場の女性活躍では、性別を配慮することも必要であり、ライフイベントを意識して、若いうちに女性に積極的に経験させることを考え取り組んでいる。

(委員) 企業に育休の制度があっても上司が認めていなければ、取りづらいと思う。今後、育休取得が浸透してだんだん取りやすくなっていくと良いと思う。

また、最近では、若い世代が、忙しいから仕方ないのかもしれないが、町会に加入してもらえないことがある。災害時にはコミュニティ形成が大切である。助け合うためには近所づきあいも必要だと思う。

4. 閉会